市民の方からの御意見とその対応<令和5年度>

<令和5年9月18日受付>

主な御意見	対応
○事務事業評価制度について	
<p>1 R4年度事務事業評価結果を見ましたが、簡素すぎて評価の意味がありません。全ての事業について評価を出してください。</p> <p>また、各事業の収支の他、人件費、事業の効果などを省みることができる内容にして、次年度の予算審議に間に合うように公表してください。</p>	<p>事務事業評価の評価票については、きめ細かな内容を記載すると情報が多く、分かりにくいといった課題があり、より分かりやすく情報を発信するため、適宜改善を重ねてきました。</p> <p>また、令和3年8月に策定した行財政改革計画に「評価の簡素化を図り、効率的な運用を実施」と掲げていることを踏まえ、令和3年度からは、評価対象事業を限定して実施するなど、簡素化し、効率的な手法により評価を実施しています。</p> <p>なお、事務事業評価制度は、平成15年度に制度導入以後、改善を重ねながら、20年間にわたり継続してきた結果、個別事業の必要性や効率性等を評価し、その結果を踏まえて事業見直しを行う制度の目的は庁内に定着しており、経常的な業務については、評価票を作成しなくても、予算編成において、その趣旨を活かして取り組んでいるところです。</p> <p>引き続き、事務事業評価を継続して実施するとともに、より良い評価制度となるよう、制度の改善に取り組んでまいります。</p>

<令和5年9月24日受付>

主な御意見	対応
<p>1 市が自分達で評価しても都合の良い結果になるため、市民アンケートを実施してほしい(ホームページで投票など)。</p> <p>評価して悪い事業をつぶさないから膨らんで財政破綻するのだろ。改革すべきはこのようなシステム。</p>	<p>本市では、事務事業に係る評価の客観性及び透明性を確保する観点から、調査及び審議を行うため、「京都市事務事業評価委員会」を設置し、第三者評価を実施しています。委員は、学識経験者のほか、市民公募委員を委嘱することで市民意見の反映に努めているところです。</p> <p>また、本市は、コロナ禍において、リーマンショック並みの税収の減少や支出の増加が見込まれる中、今後、このまま何も改革をしなければ、財政が破綻しかねないという危機に直面しましたが、市民の皆様の御理解、御協力を得ながら、行財政改革と都市の成長戦略を進めた結果、令和4年度決算で77億円の黒字となり、財政難克服への道筋をより確かなものにしました。</p> <p>引き続き、行財政改革計画に基づく点検等を事務事業評価として実施するとともに、より良い評価制度となるよう、制度の改善にも取り組んでまいります。</p>

<令和5年10月6日受付>

	主な御意見	対応
1	<p>なぜ効率化したのか。マンパワーを要してでもやるべきことはやるべき。どの事業が効率的でないかをチェックするための制度ではないのか。効率化するものを間違っている。審議会からも欲しい意見をもらってるだけではないのか。</p>	<p>事務事業評価の評価票については、きめ細かな内容を記載すると情報が多く、分かりにくいといった課題があり、令和3年8月に策定した行財政改革計画に「評価の簡素化を図り、効率的な運用を実施」と掲げていることを踏まえ、効率的な手法による評価の実施など、適宜改善を重ねてきました。</p> <p>また、京都市事務事業評価委員会は、事務事業に係る評価の客観性及び透明性を確保する観点から、調査及び審議を行うために設置しております。委員は、学識経験者などで構成しており、それぞれの専門性を基に客観的な御意見をいただいております。</p>

<令和5年10月29日受付>

	主な御意見	対応
1	<p>令和5年度は何を評価するのでしょうか。何を評価し、制度がどうあるべきかを議論してもらいたいです。</p> <p>効率化も結構ですが、やるべきことはやらないといけません。あまりにも内容がずさんです。</p> <p>令和4年の評価にいったい何の意味があり、どのような成果を得たのか。</p>	<p>事務事業評価は、京都市持続可能な行財政審議会からの答申（令和3年3月）も踏まえ、同年8月に策定した行財政改革計画に「評価の簡素化を図り、効率的な運用を実施」と掲げ、適宜改善を重ね実施しています。</p> <p>令和5年度も引き続き、行財政改革計画に基づく点検等を事務事業評価として実施し、事務事業評価委員会による第三者評価を経て、評価結果を公表してまいります。</p> <p>なお、令和4年度は、事業開始初年度の取組実績や課題などを踏まえた評価を実施することは、今後の効果的・効率的な事業執行の方向性を検討していくうえで、重要であるため、令和3年度の新規事業を評価対象とし、評価を踏まえて事業の効率化や充実を行っております。</p> <p><参考>令和4年度の事務事業評価結果 https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/cmsfiles/contents/0000308/308614/02_hyoukakekka.pdf</p>

<令和6年3月31日受付>

主な御意見	対応
1 市民参加型行政にするためにはまさに事務事業評価が必要。すべての事業を評価する以前のやり方に戻すべきではないでしょうか。市民参加型行政と事務事業評価の関係、どのように変えてゆくつもりなのかを教えてください。	<p>本市の事務事業評価制度は、平成15年度に制度導入以後、改善を重ねながら取り組んだ結果、個別事業の必要性や効率性等を評価する目的は庁内に定着しました。一方、全事業を対象とする事務事業評価は、情報過多で市民の皆様にとって分かりにくいこと、全国的に効率的・効果的観点で見直しが進められていること等の理由から、令和3年度に見直しを行ったところです。</p> <p>令和4年度以降は、個々の事務事業については、新規・充実事業を深掘りして評価を実施し、その他の経常的な業務については、評価票を用いて一律の評価を行うのではなく、予算編成過程の中で検証を行うなど、これまでの事務事業評価の趣旨を活かして効率的・効果的な形で取り組んでいるところです。</p> <p>また、市民参加型行政の実現に向けては、市政の情報を市民の皆様と共有することが重要であり、事務事業評価のみならず、行政コストの見える化なども含めて、市民の皆様理解と関心を深めていただけるよう、引き続き努めてまいります。</p>